

● 特集 ボランティアセンター設立 20周年

阪神・淡路大震災を契機として1998年11月に誕生したボランティアセンター。20周年の節目にさまざまな企画が実施されました。卒業生と、初代センター長と、地域の皆さんと、教職員と、そして学生同士といった多彩な交流から得られた知見はこれからのボラセンを形作っていくうえでの大きなヒントとなりました。

(詳しくはP5)



● 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム



ボランティア実践と、大学の学びを融合する全学的な取り組みは3年目を迎え、2016年度に登録した学生(3年生)が今年度認証を受けます。上級生の取り組みは下級生の道しるべとなっています。

(詳しくはP31)

1日社会貢献プログラム

● 1 Day for Others

2016、2017年度に引き続き、春学期・秋学期の2期制で実施。延べ711名の明学生が参加しました。新規のプログラムには学生の考案から発したものもあり、学生目線のプログラムが実施されました。

(詳しくはP35)



● 「Do for Smile@ 東日本」 プロジェクト

明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム / 陸前高田復興支援プログラム

東日本大震災復興支援活動。震災発生直後から延べ約 2,000 名の学生が現地で活動しています。

震災を知らない世代が増えていく中、各プログラムが転換期を迎え、それぞれの役割を考えながら活動する 1 年となりました。
(詳しくは P40)



● 明学レッドクロス



日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップのもと、活動しています。

白金キャンパスでの献血呼びかけや近隣地域の防災炊き出し訓練への参加、横浜図書館展示などの活動を継続することができました。

また、血液センター見学では献血について学びました。学習したことを行動に還元していきます。

(詳しくは P59)

● 地域活動

横浜地域活動

今年度はセクションメンバーが約 40 人と大規模であることを生かし、活動を行うことができました。

例年参加させていただいている地域のお祭りでは、子どもたちだけでなく、保護者の方も楽しめるようなブースを企画し活動の幅を広げることもできました。
(詳しくは P65)



白金地域活動

キャンパス近隣の地域で、地域の皆さんと一緒に地域活性化に取り組んでいます。

今年度は、学生たちにキャンパス周辺の情報を提供し、少しでも白金の地域を知ってもらいたいと、マップを作成しました。

(詳しくは P72)

● 海外プログラム事業部



「Think globally, step forward ～世界を変える小さな一歩～」を理念に「ジェンダー」「食糧」「格差」をテーマに活動。「明学国際ガールズ・ウィーク」を一から企画し、横浜キャンパスでの「ピンクレモネード販売」は5日間で574杯を売り上げ、世界の女の子の問題を広く学内に知ってもらう機会となりました。

(詳しくは P77)

● MG パール

ボルネオ島に生息するオランウータンなどの希少動物を守るため、現地産の淡水パールでアクセサリーを手作りし、売り上げの半分を自然保護団体に寄付する活動を続けています。

特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンの定例会に出席し現地の状況を学ぶなど、日々の活動を積極的に行いました。

(詳しくは P81)



● 学生事務局



ボランティア活動をしている学生たちをつなぐことを目的として、今年度は三つのイベントを企画運営。他大学との交流も行うなど、活動全体の活性化に取り組みました。

ボランティアセンター創設 20 周年を記念し企画・実施した「学生ボランティアフェス」では、参加者全員でボランティアについて考える機会を作ることができました。

(詳しくは P84)

● ボランティアファンド学生チャレンジ賞

本学学生のボランティア精神を支援し、社会に貢献する人材と活動を育てるための奨励金、通称「ボラチャレ」。大学公式グッズの購入によりグッズ価格の1割が積み立てられる「明治学院大学ボランティアファンド」を原資としています。

受賞団体の企画は1年間にわたり実践され、本報告書ではジャンプアップ部門3企画の活動が報告されています。

(詳しくは P90)

